

平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年11月11日

上場会社名 中日本興業株式会社 上場取引所 名
 コード番号 9643 URL <http://www.nnk-cinema.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 服部 徹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理部担当 経理部上席部長 (氏名) 三田 則男 TEL (052) 551-0274
 四半期報告書提出予定日 平成22年 11月 12日 配当支払開始予定日 平成22年 12月 2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	1,760	△ 9.9	30	—	27	—	2	—
22年3月期第2四半期	1,953	6.1	△ 14	—	△ 20	—	△ 55	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	4.04	—
22年3月期第2四半期	△ 103.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	4,940	3,120	63.2	5,790.87
22年3月期	5,185	3,163	61.0	5,870.00

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 3,120百万円 22年3月期 3,163百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
23年3月期	—	30.00	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,400	△ 12.5	44	—	35	—	10	—	18.56

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
新規 一社 (社名) 除外 一社 (社名)
(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有
(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更
① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有
② ①以外の変更 : 無
(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	23年3月期2Q	540,000 株	22年3月期	540,000 株
② 期末自己株式数	23年3月期2Q	1,100 株	22年3月期	1,046 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	23年3月期2Q	538,907 株	22年3月期2Q	539,148 株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)2ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 ¹⁾	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期におけるわが国経済は、中国をはじめとするアジア経済の成長に牽引され、企業収益には一部持ち直しの動きが見られるものの、雇用情勢や個人消費は依然として厳しく、欧州諸国の財政悪化や急激な円高による企業業績の下振れ懸念等、依然として先行きは不透明な状況で推移いたしました。

このような経営環境のもと当社グループでは、前期に続き、より一層のサービス向上を図るとともに、積極的な営業活動、徹底した経費コントロールに努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は17億60百万円(前年同期比9.9%減)、営業利益は30百万円(前年同期は営業損失14百万円)、経常利益は27百万円(前年同期は経常損失20百万円)となり、資産除去債務会計基準の適用に伴い、その影響額10百万円を特別損失として計上した結果、四半期純利益は2百万円(前年同期は四半期純損失55百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(シネマ事業)

シネマ事業におきましては、定番のアニメーション作品や3D作品が好成績をあげました。特に夏の興行は「踊る大捜査線 THE MOVIE3」「インセプション」「ソルト」等の話題作が豊富で好調に推移した結果、売上高は12億83百万円、営業利益は36百万円となりました。

(リラクゼーション事業)

リラクゼーション事業におきましては、不況による消費マインドの冷え込み等により苦戦した結果、売上高は4億7百万円、営業利益は6百万円となりました。

(アド事業)

アド事業におきましては、顧客の広告宣伝費の圧縮や価格交渉もあり厳しい状況が続いたことにより、売上高は69百万円、営業損失は12百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末の総資産は49億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億44百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金の減少によるものであります。

負債は18億20百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億1百万円の減少となりました。これは主に長期借入金の減少によるものであります。

純資産は31億20百万円となり、前連結会計年度末に比べ42百万円の減少となりました。これは主にその他有価証券評価差額金の減少によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べて2.2ポイント増加し、63.2%となりました。

当第2四半期連結会計期間末のキャッシュ・フローの状況としては、営業活動によるキャッシュ・フローは1億9百万円の増加となりました。これは主に減価償却費1億23百万円及び差入保証金の減少額60百万円によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは7百万円の減少となりました。これは主に事業譲渡による収入30百万円及び有形固定資産の取得による支出29百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは2億43百万円の減少となりました。これは主に借入金の返済による支出2億18百万円及び配当金の支払額16百万円によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の減少額は1億40百万円となり、現金及び現金同等物の期末残高は5億79百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月14日に公表いたしました連結業績予想を修正いたしております。詳細につきましては、本日別途開示する「業績実績および業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要
税金費用の計算

法人税等の納付税額の算定に関しては、当連結会計年度の税金等調整前当期純損益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税金等調整前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

① 資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

この変更により、営業利益、経常利益はそれぞれ2百万円減少しており、税金等調整前四半期純利益は13百万円減少しております。

② 表示方法等の変更

四半期連結損益計算書

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等」の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	515,882	826,724
受取手形及び売掛金	89,469	75,105
有価証券	170,018	—
たな卸資産	8,991	7,421
繰延税金資産	50,690	50,690
その他	119,051	117,615
貸倒引当金	△888	△1,666
流動資産合計	953,216	1,075,891
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,560,273	2,603,875
機械装置及び運搬具(純額)	159,843	133,403
工具、器具及び備品(純額)	140,767	158,549
土地	179,153	179,153
有形固定資産合計	3,040,036	3,074,981
無形固定資産		
電話加入権	1,147	1,147
ソフトウェア	44,515	45,437
無形固定資産合計	45,663	46,585
投資その他の資産		
投資有価証券	244,703	292,705
差入保証金	601,501	662,063
長期前払費用	4,475	2,170
繰延税金資産	51,276	31,360
投資その他の資産合計	901,956	988,299
固定資産合計	3,987,656	4,109,866
資産合計	4,940,872	5,185,757

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	247,432	274,031
1年内返済予定の長期借入金	196,192	196,192
リース債務	19,147	16,304
未払金	6,905	3,590
未払法人税等	20,510	3,057
未払消費税等	—	44,084
未払費用	51,559	54,317
賞与引当金	13,680	13,550
その他	48,538	32,108
流動負債合計	603,964	637,235
固定負債		
長期借入金	706,642	925,552
リース債務	27,386	24,456
役員退職慰労引当金	94,546	89,914
退職給付引当金	50,273	47,106
資産除去債務	47,725	—
受入保証金	289,632	297,828
固定負債合計	1,216,205	1,384,857
負債合計	1,820,170	2,022,093
純資産の部		
株主資本		
資本金	270,000	270,000
資本剰余金	13	13
利益剰余金	2,845,878	2,859,870
自己株式	△10,263	△9,826
株主資本合計	3,105,628	3,120,058
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,073	43,605
評価・換算差額等合計	15,073	43,605
純資産合計	3,120,702	3,163,664
負債純資産合計	4,940,872	5,185,757

(2) 四半期連結損益計算書
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	1,953,267	1,760,772
売上原価	1,010,938	833,043
売上総利益	942,329	927,728
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	33,742	26,341
人件費	325,531	283,550
賞与引当金繰入額	14,200	13,680
役員退職慰労引当金繰入額	4,252	4,632
退職給付費用	6,884	3,166
減価償却費	79,806	112,616
地代家賃	194,885	194,795
水道光熱費	66,880	89,213
修繕費	1,762	1,712
その他	228,399	167,494
販売費及び一般管理費合計	956,345	897,202
営業利益又は営業損失(△)	△14,015	30,525
営業外収益		
受取利息	155	169
受取配当金	2,712	3,110
協賛金収入	—	1,309
その他	3,463	2,517
営業外収益合計	6,330	7,106
営業外費用		
支払利息	11,277	8,765
その他	1,829	1,568
営業外費用合計	13,107	10,333
経常利益又は経常損失(△)	△20,792	27,298
特別利益		
貸倒引当金戻入額	133	778
特別利益合計	133	778
特別損失		
固定資産除却損	—	399
固定資産臨時償却費	26,878	—
減損損失	47,135	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10,746
特別損失合計	74,013	11,145
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△94,673	16,931
法人税等	△39,141	14,755
少数株主損益調整前四半期純利益	—	2,176
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△55,532	2,176

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△94,673	16,931
減価償却費	126,441	123,807
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△133	△778
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△6,500	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△300	130
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△379	3,166
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1,852	4,632
受取利息及び受取配当金	△2,867	△3,279
支払利息	11,277	8,765
固定資産除却損	—	399
固定資産臨時償却費	26,878	—
減損損失	47,135	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	10,746
売上債権の増減額(△は増加)	6,424	△14,364
たな卸資産の増減額(△は増加)	△955	△1,569
その他の流動資産の増減額(△は増加)	17,538	△31,956
差入保証金の増減額(△は増加)	52	60,561
仕入債務の増減額(△は減少)	△67,262	△26,599
未払金の増減額(△は減少)	4,194	3,315
未払消費税等の増減額(△は減少)	△4,081	△44,084
未払費用の増減額(△は減少)	△11,134	△2,758
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△4,238	△1,658
その他	17,414	12,789
小計	66,683	118,195
利息及び配当金の受取額	2,867	3,279
利息の支払額	△11,277	△8,765
法人税等の支払額	38,943	△2,950
営業活動によるキャッシュ・フロー	97,216	109,760
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,985	△29,839
無形固定資産の取得による支出	△1,451	△8,033
事業譲渡による収入	—	30,794
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,436	△7,078
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△7,764	△7,989
借入金の返済による支出	△98,096	△218,910
配当金の支払額	△16,175	△16,168
自己株式の取得による支出	△1,894	△437
財務活動によるキャッシュ・フロー	△123,930	△243,505
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△36,150	△140,823
現金及び現金同等物の期首残高	595,900	720,724
現金及び現金同等物の四半期末残高	559,750	579,900

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	シネマ (千円)	リラクゼーション (千円)	カルチャー (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,249,549	429,636	274,081	1,953,267	—	1,953,267
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	97,200	152	1,022	98,374	(98,374)	—
計	1,346,749	429,788	275,103	2,051,641	(98,374)	1,953,267
営業利益又は営業損失(△)	△ 13,411	11,218	△ 11,824	△ 14,015	—	△ 14,015

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっている。

2. 各事業の主な内容

- (1) シネマ ……映画興行、劇場内売店、不動産賃貸
- (2) リラクゼーション ……飲食店、浴場施設等
- (3) カルチャー ……書籍・映像ソフト・音声ソフト等の販売及び映像ソフト・音声ソフトのレンタル、看板の制作、広告代理店等

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
在外子会社及び在外支店がないため該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)
海外売上高がないため該当事項はありません。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、取り扱い製品・サービス別に部門を分け、それぞれが包括的な総合戦略を立案し、事業活動を展開しております。したがって、当社は部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「シネマ事業」「リラクゼーション事業」「アド事業」の3つを報告セグメントとしております。

「シネマ事業」は、映画館の運営と不動産賃貸をしております。「リラクゼーション事業」は、スーパー銭湯と飲食店を運営しております。「アド事業」は、看板の製作と広告代理店等を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	シネマ	リラクゼーション	アド			
売上高						
外部顧客への売上高	1,283,193	407,673	69,905	1,760,772	—	1,760,772
セグメント間の内部売上 高又は振替高	95,835	155	1,598	97,589	△ 97,589	—
計	1,379,028	407,828	71,504	1,858,361	△ 97,589	1,760,772
セグメント利益又は損失(△)	36,711	6,707	△ 12,893	30,525	—	30,525

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。